

「せとうち発見の道」市民協働企画

生誕百三十五年記念
詩人・正富汪洋展

日時 平成29年1月7日（土）～15日（日）
会場 瀬戸内市民図書館
参加費 無料（観覧自由）
主催 瀬戸内市民図書館

資料提供 本庄郷土史研究会・武久和正氏
資料協力 東洋大学校友会岡山県支部
展示協力 せとうちキラリ☆くらぶ
問い合わせ先 瀬戸内市民図書館
電話0869-24-8900（担当：村上）

瀬戸内市邑久町本庄に生まれた詩人、正富汪洋の業績や人柄、ふるさとなどを、武久和正氏が研究してきた成果をもとに、パネルで紹介します。



【正富汪洋プロフィール】

明治14年（1881）2月20日、岡山県邑久郡本庄村（現瀬戸内市）生まれの詩人。

本名は由太郎。哲学館大学（現：東洋大学）卒業。雑誌記者をしながら詩歌の創作活動を続け、のち詩作に専念して雑誌「新進詩人」を発行するなど活躍した。尾上柴舟・若山牧水ら共に「車前草社」を結成、清水橘村との共著の『夏ひさし』、『小鼓』がある。

与謝野鉄幹と離婚した滝野と結婚し、滝野夫人に「鉄幹よりも偉い人になってくださいね」と励まされたと伝えられている。昭和42年（1967）8月14日歿。